

憧れ

高校時代はバンド活動に熱心でした。「天使の3P!」では、その時の夢と素直に向き合って、純粋な気持ちを思い出しながら書いています

電撃文庫「天使の3P!」シリーズの見どころや執筆時にこだわったところを教えてください。
蒼山サグ氏(以下、蒼山)：やっぱりヒロインの年齢でしようか。小学5年生であることを意識して書きつつも、ライトノベルとしての様式美から逸脱しすぎないように注意しました。子供らしさと愛らしさが両立できるラインを模索して、バランスを取ることを入れています。あとは第2巻から始まった冒頭のプロローグが意外と大変で(笑)。毎回の約束として小ネタから物語が幕を開けるんですが、第3巻でいろんな意味でやりすぎてしまってます(笑)。
——主人公と同級生・鳥海桜花との初体験ですね。
蒼山：そのリアルな趣味を反映しているという……。
蒼山：そんなんです！実は編集さんからやんわり「いい加減しろ」と怒られるくらい、出し切った感があった。「もう、このあとなにをやってもたいしてインパクトないんじゃないか」と(笑)。だから4巻では書き始めに思いっきり頭を抱えてしまいました。でも、最終的には「あ、まだ意外といける……？」と手こたえを感じたのでホッとして。まあ、あんまり悩んで書いていると思われて、フランスになる内容ではないんですけど、その実見た目より力入ってます(笑)。最新刊の第4巻のみの話になりますと、3巻かけてキャラクターの性格や物語の構成など、シリーズとしての土台が今まさに固まったところなので、ある意味新たな始まりだと思っています。ここからまた新しい要素を入れて、今までとは違った魅力を出していきたいと思います。転換の巻、みたいななければいいなと思いつきながら書きました。
——今作のテーマは音楽です。蒼山さんはバンドマンになるのが夢だったというは本当ですか？
蒼山：本当です。故郷の秋田で「バンドマンになるから東京へ行くぜ！」と親にいったら戦争が起これると思ったので、ふつとに大学に行くという体で(笑)。高校時代は「Acousticのコピーバンドをやったり、オリジナルをやったり、音楽活動に熱心でした。「天使の3P!」では、その時の夢と素直に向き合っていて、純粋な気持ちを思い出しながら書いています。実際のところ、上京してのバンド活動は失敗続きで、2、3年は腐りきっていて、ノーフューチャーな感じになっていました。



蒼山サグ氏最新作! 「天使の3P!」シリーズ
最新刊のカラーは、愛すべき我がボカール・潤が目印だ。



実力派マンガ家が描くコミカライズも大人気
蒼山氏大絶賛のコミック版「ロウきゅーぶ!」と「天使の3P!」が、電撃G'sコミック(毎月30日発売)で楽しめるので注目だ。



たかみ裕紀氏の描く、女子バスケットの弾けるフトモモとギャグ堪能♡ 単行本第8巻まで発売中。
▼作画はロリっ娘を描く天才・水谷悠珠氏。単行本第1巻が11月10日に発売するので楽しみにね♪

問題作

どうも時雨沢さんは僕のことを逮捕させたくてしょうがないみたいで……というのは冗談で、オイシイ帯をいつもありがとうございますと感謝の嵐です

電撃文庫作家を直撃! 1

FIGHTING FAIR SPECIAL INTERVIEW

蒼山サグ氏

「小学生は最高だぜ!」と賛同するファンが急増♪ 電撃文庫の大人気ノベル『ロウきゅーぶ!』の著者・蒼山サグ氏が手がける新シリーズは、やっぱり小学生もの!? 秘密に包まれたその執筆活動に迫ります!

PROFILE 1981年、秋田県に生まれる。高校時代はNBA鑑賞とバンド活動に熱中。「ロウきゅーぶ!」で第15回電撃小説大賞<銀賞>を受賞。趣味は釣り。

じで生きてきました。その時にふと思いついてライトノベルを書き始めたんです。
——それが「ロウきゅーぶ!」の誕生秘話ですね。今回も時雨沢恵一さんが「ロウきゅーぶ!」の時と同じ、第1巻の帯に推薦文を贈っていただけますか？
蒼山：どうも時雨沢さんは僕のことを逮捕させたくてしょうがないみたいで、「お風呂のシーンが多い」「小5ロリの問題作」と、実的に確に見どころを抜粋してください(笑)。……というのにはもちろん冗談半分、オイシイ帯をいつもありがとうございますと感謝の嵐なんです(笑)。
——今、先輩へ伝えたいことはありますか？
蒼山：今回の記事が時雨沢さんだとうかがったので「お巡りさん、あっちへ行きませよ」と(笑)。「逮捕フラグが立ったところで、次の質問に(笑)。両作品のコミカライズが電撃G'sコミックで好評連載中ですが、コミックの魅力とは？
蒼山：たかみ裕紀先生も水谷悠珠先生もすごく原作を大事にしてくれて、感謝の念に堪えません。それに加えて、僕が出しきれなかった小学生の躍動感を描いてくださって興奮します。たかみ先生の描く「ロウきゅーぶ!」のバスケットシーンは、コマ割りが動画を見ているかのようにおみごとですし、読むと影響を受けたら、「原作超えてる!」と思うこともしょっちゅうあり。そして、悠珠先生の「天使の3P!」は、繊細なタッチで小学5年生の表情や仕草を描いてくださって、本当にかわいいです。原作ノベルが苦手な方でも楽しめるんじゃないかと思っています。あとお2人とも女性作家さんなので、男性キャラもないがしろにせず、かっこよく描いてくれるのもうれいなんです。
——最後に今後の野望を教えてください!
蒼山：100cm以上の魚を釣ることです! 嘘です。仕事面では、今後のシリーズでは音楽的な要素をもっとしっかり書いていきたいので、その勉強をしています。音楽学校に通うことも視野に入れて、計画を練っています。授業費はなんとか取材費で落とせないか……それは冗談ですけど(笑)。音楽への情熱を再認識しましたし、自分で楽曲制作をするのも目標ですね。

キノが出てきて、師匠たちとシズたちが出てきて、いつものメンバーがいつもどおりのことを繰り返す。それが一番の見どころなのだと思いますね

——デビュー作の「キノの旅」が14年も続く長いシリーズになりました。最新刊も発売されたばかりですが、執筆活動を振り返ってみたいかがですか？
時雨沢恵一氏(以下、時雨沢)：まさか、こんなに続くとは……。もともとは第6回電撃小説大賞の入賞を逃した応募作でしたし、第2巻で終わると思っていたんです。当時、担当編集さんといっしょに「売り上げ的に2巻で打ち止めだろうから、今ある原稿を全部収録しちゃおう」と。第2巻がちょっと厚いのはそのせいなんです。でも、第3巻が発売され、続いて第4巻も……。別にあわてて収録する必要なかったんじゃないかという(笑)。ドラマCDにもなったし、TVアニメ化もされたし、気づいたら作家デビューから14年が過ぎていました。電撃文庫の中では「ブギーポップ」シリーズがまだ続きますけど、それに匹敵するくらい長くなりましたね。——では、10月10日に発売されたばかりの最新刊「キノの旅XIII the Beautiful World」は、どのような内容になっているのですか？
時雨沢：いつもどおりです。キノが出てきて、師匠たちとシズたちが出てきて、いつものメンバーがいつもどおりのことを繰り返す。毎度のことながら、ろくな国がないです(笑)。それが本作の一番の見どころなのだと思います。1つだけ違うのは、「フルート」という銃が初ビジュアル化されているところなんです。キノが持っている3丁の銃の中の1丁なんですけど、知り合いのマンガ家さん(秋本こうじ氏)に頼んでデザインを起こしてもらいました。その設定画をもとに黒星(紅白)さんが文庫のイラストを描いてくれたんです。登場してから10年以上たったの初ビジュアル化。感慨深いなあ。
——チョコレートのエピソードも2つあって……。時雨沢：森永さんから発売されているダースとのコラボ企画で書いたお話ですね。チョコをディスプレイしているというわけではないんですけど、最初の1編はコラボにはあまりそぐわない内容になってしまったので、もう1編書いてコラボはそちらを採用しました。チョコの話が2つあるのはそのせいなんです(笑)。
——お話は変わりますが、今は読書の秋。オススメの電撃文庫作品を1つ教えてくださいませんか？



今年でデビュー14周年 「キノの旅」シリーズ最新18巻発売中!



女子高生声優と青春3味! 新シリーズも刊行中
イラストは黒星紅白さん。「キノの旅」の原作コンビが贈る新作も。

キノは言葉を話す二輪車のエルメスを相棒に旅を続けている。ある日、彼らは大戦争を待ちわびる人々に出会い! 「スポーツの国」を含む13の物語を収録した第18巻。

▼懐かしい第1巻旧カバー。キノがちょっぴり若い?



時雨沢：1冊だと難しいな。(しばらく考え込んで)……よし! もう選べないので「キノの旅」がおもしろいということで(笑)。あとは「学園キノ」と「男子高校生で売れっ子ライトノベル作家をしているけれど、年下のクラスメイトで声優の女の子に首を絞められている」シリーズというのがおもしろいですよ! 1冊じゃなくて40冊以上出しているの、全部オススメです(笑)。
——続いている質問です。本誌はアニメ好きな読者がたくさん読んでいますが、時雨沢さんがお気に入りのアニメ作品はなんですか？
時雨沢：最近だと「ガンダムビルドファイターズ」ですね。あれはちゃんと放送時間に家にいて、欠かさず観てましたね。本当に楽しくて、続編も始まったので楽しみです。あと印象に残ったのは「ガールズ&パンツァー」と「さばげぶっ!」ですね。特に「さばげぶっ!」は銃好きな人がこだわって作っているのを感じました。ガンマニア以外は気にしない部分での描写が濃いです。実に満足でした。
時雨沢：そうですね。銃火器といえば、私が銃器監修を担当した「ソードアート・オンラインII」もリアルと空想のバランスが絶妙な戦闘シーンでしたし、クオリティーが高くてオススメです。来たる12月10日には、私が書かせてもらったスピンオフ小説「ソードアート・オンラインオルタナティブ・ガンゲイル・オンラインI —スクワッド・ジャム—」が発売されますし、そこでもガンアクションを思いっきりやらせてもらっているの、銃への愛を十分発散できました。現実世界は180cmの長身女子大生ゲーム世界ではウサ耳風のチビっ娘というヒロインが大活躍しますので、ぜひご期待ください。
——最後に、今後挑戦してみたいことがありましたらお聞かせください。
時雨沢：プライベートで旅行へ行きたいとか、豪華客船に乗って世界一周したいとか、山中の一軒家に住みたいとか、新しい車が欲しいとか、バイクが欲しいとか……いろいろありすぎて困ります(笑)。仕事だったら、もちろん小説は書き続けること、自分の作品がまたアニメ化されたらうれしいですね。

『ガンゲイル・オンラインI —スクワッド・ジャム—』ではガンアクションを思いっきりやって銃への愛を十分発散しています

電撃文庫作家を直撃! 2

FIGHTING FAIR SPECIAL INTERVIEW

時雨沢恵一氏

累計発行部数が800万部を突破した電撃文庫「キノの旅」シリーズ。最新刊「キノの旅XIII the Beautiful World」の発売を記念して、時雨沢恵一さんにこれまでの執筆活動を振り返ってもらったよ!

PROFILE 「キノの旅」が第6回電撃ゲーム小説大賞(現・電撃小説大賞)の最終選考に残りデビュー。電撃文庫を支える人気作家の1人。趣味はツーリング他多数。

バイク同好者が集まる「スクワッド・ジャム」